

第3回 沖縄の酒類製造業の振興策に関する検討会
議事要旨

1. 日時：平成29年6月20日（火）14:30～16:30

2. 会場：中央合同庁舎8号館8F特別中会議室

3. 出席者：

小泉 武夫 東京農業大学名誉教授（座長）
長谷川 浩一 （株）はせがわ酒店代表取締役社長
花牟礼 真一 三井物産（株）那覇支店長
浜野 京 信州大学理事（内閣府知的財産戦略推進事務局政策参与）
安田 正昭 琉球大学名誉教授
結城 摂子 マンダリン工房・フードコーディネーター
渡邊 賢一 （一社）元気ジャパン代表理事

○国及び県

榎谷 裕司 内閣府沖縄振興局長
古谷 雅彦 内閣府大臣官房審議官
安藤 年式 内閣府沖縄振興局調査金融担当参事官
能登 靖 内閣府沖縄総合事務局局長
増田 義一 内閣府知的財産戦略推進事務局次長
田村 公一 国税庁課税部酒税課長（山名 国税庁長官官房審議官 代理）
谷口 裕之 沖縄国税事務所長
伊集 直哉 沖縄県商工労働部産業雇用統括監（屋比久 沖縄県商工労働部長 代理）

○オブザーバー

新崎 康 沖縄振興開発金融公庫融資第二部長
玉那覇美佐子 沖縄県酒造組合会長
土屋 信賢 沖縄県酒造組合専務理事
大城 勤 沖縄県酒造協同組合理事長

4. 議事概要：

- 沖縄の酒類製造業の振興策に関する検討会中間まとめ（素案）について
資料2に基づき、内閣府沖縄振興局から説明があった。
- 日本産酒類の輸出促進に向けた課題及び対応方針について
資料3に基づき、内閣府知的財産戦略推進事務局から説明があった。
- 泡盛振興協議会・推進部会の概要等について
資料4に基づき、沖縄県商工労働部から説明があった。
- 沖縄県酒造組合今年度の取組について
資料5に基づき、沖縄県酒造組合から説明があった。
- 認知度向上・消費拡大について

泡盛サングリア普及プロジェクト(案)について、資料6に基づき花牟礼検討員から説明があった。

- ・ 泡盛サングリアの普及には、プロモーション戦略(認知度向上)のみならず、消費拡大のための出口戦略(量販店、外食チェーンへの働きかけ等)も併せた実施が必要。「泡盛は苦手だが、泡盛サングリアなら飲める」という声も多く、将来的に古酒に興味を持つきっかけとなるとよい。また、文化創出のワクワク感もあり、今後期待できる分野。
引き続き、意見交換が行われた。
- ・ 泡盛サングリアプロジェクトは外国人も対象としてはどうか。「ジャパンハウス」にも置けるとよい。
- ・ 沖縄の美しい花とともに泡盛を楽しむという立体的な売り方もあるのではないかな。
- ・ 宮古島の「お通り」も、泡盛サングリアなら女性も親しみやすくなるのではないかな。
- ・ 東京で例年行われる沖縄関係のイベントに、泡盛サングリアを置くのもよいのではないかな。
- ・ 泡盛サングリアに美容に良いと言われる月桃の葉や花を入れてはどうか。「サングリア」はワインのイメージが強く、独自の名前を付けてはどうか。
- ・ 泡盛サングリアはアルコール分20度以上の泡盛であれば家で作れ、税務署に特例適用緩和開始申告書を提出すれば店でも出せる。インフルエンサーは特に重要で、大学生、若者層にアクセスする方法を検討してはどうか。
- ・ 立体的な広報展開には、沖縄の重要な文化である「エイサー」と関連付けてはどうか。
- ・ 広報戦略はマスコミによる報道が効果的。例えば泡盛を順位づけするコンペを開催すれば、マスコミに取り上げられるのではないかな。
- ・ 空港での試飲イベントを離島の空港でも実施してはどうか。航空会社と連携するのもよい。

○高付加価値化・ブランド化について

- ・ 空手を活用したブランド化について、空手愛好家が最も購読する専門誌に広告を掲載してはどうか。
- ・ 本年11月に開催される「空手道選手権大会」のレセプションなどに泡盛を置くとよいのではないかな。
- ・ 「泡盛百科」(沖縄県酒造組合のウェブサイト)がビジュアル化されていない。小規模酒造所に関する情報など、発信の仕方を工夫してはどうか。
- ・ 先日トップシェフに泡盛を飲んでもらったところ、大変感動していた。トップシェフの影響力は大きく、周囲に波及する可能性も多いにある。例えば、来年1月に開催される「マドリッドフェーション」に泡盛を置き、トップシェフの反応を見るのもよいのではないかな。

○経営基盤の強化について

- ・ 経営基盤の強化は中長期的な課題ではなく、早急に実施する必要がある。
- ・ 古酒を造るとキャッシュが寝るので、新酒をバランス良く売っていく必要があるが、古酒と新酒ではマーケットが異なり売り方が難しいのでは。
- ・ 古酒はキャッシュが寝ることになるが、新酒と比べて高値で売れるため、古酒を売りたいのが本音。バランスの良い価格設定も重要。
- ・ 沖縄公庫では「沖縄特産品振興貸付」として最優遇金利での貸付や、泡盛を動産担保とする貸付も行っている。
- ・ クラウドファンディングによる古酒を作ってはどうか。
- ・ もろみ酢や甘酒を売り出してはどうか。
- ・ 泡盛を福島で貯蔵し、「琉球生まれの阿武隈育ち」として売り出したが、評判がよかった。

○伝統文化としての泡盛の振興について

- ・ 文化庁が琉球料理を日本遺産にしようとしているが、泡盛も含めてはどうか。
- ・ 和食がユネスコ無形文化遺産登録されているが、和食と琉球料理とは異なるもの。黒麹菌という琉球固有の菌でつくられた泡盛がないと琉球料理は成り立たず、失われていく琉球文化を保護する意味で、ユネスコ無形文化遺産登録が必要と考える。

○その他

- ・ 泡盛酒造所で働く方が、県の製造業として誇りを持つことが必要。
- ・ 日本酒などにならって、ある工程（例えば瓶づめなど）を共同で行えばコスト減につながるのではないか。
- ・ 酒造所が共同した取組としては、泡盛のブランディング化や、「共同物流センター」の利用と沖縄から東京への共同輸送等を行っている。

○以上で意見交換は終了となり、「中間とりまとめ」の作成については座長に一任となった。

以上